

FDニュース

発行日 2016年 3月17日

目次:

第2回学生FD「しゃべり場」の開催	1
国際グッドプラクティス	2
H27年度卒業予定者に対するアンケート調査	3
H27年度前期授業アンケート集計結果について	6

1 第2回学生FD「しゃべり場」の開催

昨年12月4日に本学部の学生FDワーキンググループ主催の第2回「しゃべり場」が開催されました。今回のしゃべり場では、有志の学生、教職員約20名が参加し、「あったらいいこんな授業」、「できたらいいこんな授業」というテーマについて自由に意見を出し合うワークショップを行いました。90分間と短い時間でしたが、様々な意見が出されました。ここでは、それらの全てを紹介することはできませんが、声の多かったものを中心にダイジェスト版を作成しました。今の学生が授業に何を求めているのか、その一端を垣間見ることができました。

グループ1では、学生の求める授業のキーワードとして、1) 学生主体、2) 交流、3) 課外授業、4) 少人数が挙げられました。学生主体の項目では、プレゼン型の授業、グループ・ディスカッションやディベート等の意見交換ができる授業、学生の発表機会を多くする等の意見が出されていました。交流の項目では、ネットを利用して海外の学生との交流、他学部と共同の授業等の声がありました。課外授業では、フィールドワーク、アクティビティのある授業等の声が多



グループ1の発表風景

かったです。最後の少人数の項目では、20名程度のクラス編成を求める意見が挙げられていました。続いて、グループ2では、1) 日本文化、2) 実践トレーニング、3) 人間、4) 命、5) 英会話等のキーワードが挙げられていました。一番付箋の多かった日本文化では、日本のソフトカルチャーやクールジャパンを学ぶための学問に対する志向が強くあり、具体的には、日本の食、音楽、映画、漫画学・アニメ学、ゲーム等多数の声がありました。変わりどころでは、化粧学というものもありました。次に多かった実践トレーニングの項目では、異文化理解やコミュニケーションのためのトレーニング、ディベートやプレゼンのスキルを高める、体験型国際交流、さらには料理についても学ぶといった意見が寄せられていました。人間のキーワードでは、人間関係学、自分を知る講座、人とうまく接する方法、お悩み相談、また、恋愛学といった声がありました。命の項目には、生死の意味について考える「いのち」学、世界との

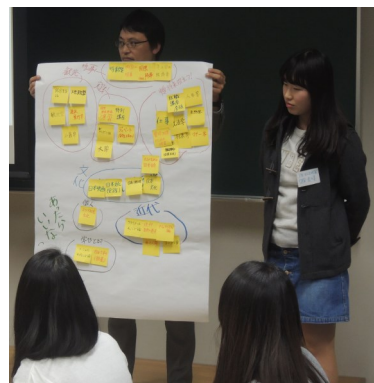
比較を含む子供学等の声が寄せられました。英会話では、英会話授業の充実といった声を中心となっていました。

グループ3では、1) 将来役に立つ、2) 観光、3) 実践、4) 文化といったキーワードがありました。一番多かった将来役に立つの項目では、授業としての就職講座、就活学、資格取得のための授業、マナー学といった実践的なものから、社長学、人生学等の意見もありました。観光では、限界集落論、通訳案内学、三島学といった声がありました。実践では、ディベートやプレゼンに関するものが挙げられていました。文化では、日本映画、日本文化論、日本人統計学といった声が寄せられていました。



グループ2の発表風景

ここで挙げられているのは、学生の生の声です。体験型、実践型等への要望が多いのが特徴で、これらをそのまま大学教育として採用することはできませんが、学生主体の授業運営を考える上でのご参考としていただければ幸いです。



グループ3の発表風景

(文責:FD委員大西富士夫)

2 国際グッドプラクティス

今回は国際関係学部の駒美保助教の「数理の世界」の授業にお邪魔しました。授業の開始から終りまでフォーマットが確立されていて、学生にとってもどこで集中したらよいか、また、息を抜けばよいか分かりやすく、メリハリのはっきりとした授業運営が特徴的でした。別の言い方をすれば、学生の目線を大切にされた授業が行われていました。

駒美保助教「数理の世界」

授業レポート:今回お邪魔させていただいた駒先生の授業は、国際関係学部の総合教育科目で1年次対象の授業です。本授業では、数学を用いて定量的、論理的な思考方法を身につけることが目標となっています。

授業はまず「丁寧」な連絡事項から始まりました。連絡事項には、返却物や配布物の確認、成績評価の方法の確認、試験範囲やその対策、出題形式についての説明、そして、「老婆心ながら」という前置きの後、授業の基本的なコンセプト、数学が苦手な人への配慮、試験の得点につながるような明確な努力目標などが含まれていました。「丁寧」というのは、解かり易いスライドが用いられているだけでなく、常に数学に苦手意識をもつ学生への配慮が垣間見られたことです。授業を行う上でどの水準に授業の照準を絞るべきかということは以前のFDニュースで紹介した教員懇談会の際にも指摘された問題でしたが、駒先生の場合、明らかに授業についていけなくなった学生を念頭に授業を組み立てている点が印象的でした。

次に駒先生が大切にしていたのは、前回のおさらいでした。私がお邪魔した回のおさらいトピックは、科学的思考法(帰納)と微分・積分でした。前者については、新しい法則を発見しようとする事の大切さ、またそれを仮定した上で、新法則を検証することを考えながら、ある事象(新しい趣味・勉強)に取り組むことが有効であることを身近な例を示しつつ話されていました。私は、日ごろ、科学的思考法は大学教育、特に科学分野(社会科学や自然科学)の中で基本中の基本であり、高校と大学での学びの最も大きな違いであるのにもかかわらず、科学的思考方法の重要性に対する認識が学生の間であまりにも浸透していないと思っていたところ、駒先生はまさに科学的思考について解かり易く説明されていました。特に、「帰納で得たルールは絶対ではない。反証されたらすぐ捨てて、新しいルールに置き換えましょう」と述べられていたことには全く同感しました。

また、微分・積分も文系の学生が苦手とする分野ですが、身の回りの分かりやすい例を挙げつつ、微分・積分が、数量の変化の様子(関数の性質)を調べるために非常に役立つものだという事を誰にでも分かるように優しく説明されていました。例えば、微分は速さの計算に役立ち、特に一定でない速さを一般化するためのものであると説明していました(普通速さは一定ではない)。積分は、関数の広域的な性質を調べる操作で、例えば速さから進んだ道のりを求めるのに必

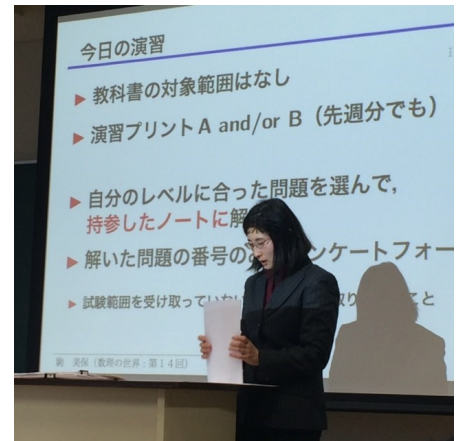
要であると述べていました。帰納にしても、微分・積分にしても大変難しいトピックでしたが、駒先生にかかると魔法にかかったかのようにすんなりと頭に入りました。

次に始まったのが、ウォームアップと呼ばれる計算の時間です。6分で100題の計算を行うのですが、学生は自分の計算力が伸びていくのが分かって楽しいと話していました。私も挑戦しましたが、学生の方が多くの問題をすいすい手慣れた様子で解いており、正直驚きました。学生の表情が生き生きとしていたのが印象的でした。

そして、授業はいよいよ本題へ。まず、「今日のお作法」と呼ばれる時間が始まり、そこでは、ある薬品会社のCMで、100人中95人が効果があったことを根拠として、この薬は効果があったといえるのかという問い掛けがあり、この命題の真偽の確認方法として、対照表が紹介されました。続いて、社会生活における表やグラフの読み取りの大切さへと話題が発展していき、「今日のトピック」という項目として、平均値、中央値、度数分布、ヒストグラム、正規分布といった概念の説明が行われました。まさに流れるように話が進み、再び「駒マジック」にかかってしまいました。駒先生の説明が一通り終わると、学生には演習問題が出されます。この演習問題も難易度の違うものが2種類用意されており、学生がいずれかを自ら選んで問題を解くことになっていました。学生は自らの理解度や習熟度に応じて問題を選択できる仕組みとなっており、ここにも学生目線に立った授業運営の様子が伺えました。

授業を体験しての感想

今回は傍聴ということで駒先生の授業にお邪魔させて頂いたのですが、いつの間にか駒先生の学生になったような錯覚に陥ってしまいました。皆様も駒先生の個人的な魅力、すなわち、駒マジックを一度体験されてはいかがでしょうか。(大西富士夫助教)



講義中の駒先生

3 平成27年度卒業予定者に対するアンケート調査報告書

この調査報告書は平成27年度に卒業予定の国際関係学部の学生を対象に平成27年11月から12月にかけて行ったアンケートを基に作成したものです。このアンケートに回答した学生数は総数が390名ですが、性別・学科別記入に漏れがあるため、性別では男性が200名、女性144名、学科別では国際総合政策学科182名、国際教養学科149名となりました。

回答枚数	390		
男性	200	女性	144
国際総合政策学科	182	国際教養学科	149

1) 入学時点の本学部への志望順位について教えてください。

入学時志望度	回答数	%
第1志望	199	51%
第2志望	98	25%
それ以下	91	23%
合計	388	100%

2) 全体的な大学生生活の満足度についてお聞かせください。

大学生生活満足度	回答数	%
満足	92	24%
やや満足	169	44%
どちらともいえない	84	22%
やや不満	27	7%
不満	14	4%
合計	386	100%

3) 卒業後の進路についての満足度についてお聞かせください。

進路満足度	回答数	%
満足	126	32%
やや満足	125	32%
どちらともいえない	112	29%
やや不満	14	4%
不満	11	3%
合計	388	100%

4) 国際関係学部で学んでどのようなことが身につきましたか？

国際情勢の知識	140	理解力	53	行動力	121
国際文化の知識	140	文章力	52	相手の立場に立つ習慣	67
語学力	76	プレゼン能力	102	協調性	96
論理的思考能力	49	情報処理力	31	新聞やニュースを読む習慣	84

5) 勉学状況についてお聞かせください。

勉学状況	回答数	%
熱心に取り組んだ	143	39%
どちらともいえない	175	47%
熱心に取り組まなかった	52	14%
合計	370	100%

6) ゼミを選んだ基準についてお聞かせください。(複数選択可能)

関心のある地域や分野だから	198	海外ゼミ研修の有無や内容	37	先輩や友人からの評判	54
ゼミの活動内容や雰囲気	120	先生の人柄	124		

7) あなたは授業を選択する際、どんな点を重視しましたか。(複数選択可能)

興味関心	243	学生の評判	92	校舎の移動	69
希望進路を考慮して	44	単位の取りやすさ	108	コース推奨科目	25
先生との相性	64	スケジュール	138		

8) 大学在学中、海外に渡航した日数の総計は何日ですか。

在学中海外渡航日数	回答数	%
93日以上	46	12%
32～92日	47	13%
1～31日	97	26%
0日	179	49%
合計	369	100%

9) 大学在学中の留学経験についてお聞かせください。

留学経験	回答数	%
長期(半年以上)	23	6%
中期(3カ月～半年)	22	6%
短期(3週間～3カ月)	49	13%
なし	283	75%
合計	377	100%

10) 留学した人は満足度についてお聞かせください。

留学満足度	回答数	%
満足	48	60%
やや満足	18	23%
どちらともいえない	8	10%
やや不満	3	4%
不満	3	4%
合計	80	100%

11) 大学生活の中で改善してほしいと思うものについてお聞かせください。(複数選択可能)

留学制度	71	事務対応	168	コース制の意義	95
奨学金制度	68	教員の教え方	56	情報環境	53
学生への連絡体制	157	開講教科と内容	65	スタディエリア	45

12) サークル・部活について。意義について。

サークル部活参加	回答数	%
参加した	267	71%
しなかった	110	29%
合計	377	100%

13) 「サークルに参加した」と答えた人。

サークル・部活意義	回答数	%
有意義だった	185	87%
有意義でなかった	28	13%
合計	213	100%

14) 授業の適正な受講生人数についてお聞かせください。

受講生適正人数	回答数	%
10～29名	130	34%
30～59名	201	52%
60～99名	47	12%
100名以上	10	3%
合計	388	100%

15) アルバイトについてお聞かせください。授業開講期間中にアルバイトをしましたか。

アルバイト	回答数	%
した	336	88%
しなかった	46	12%
合計	382	100%

(アルバイトを「した」と答えた人。アルバイトの時間と勉学の関係

16) 1週間あたりのアルバイト時間

1週間当たりのアルバイト時間	回答数	%
10時間未満	63	19%
10～19時間	149	45%
20～29時間	94	28%
30時間以上	26	8%
合計	332	100%

17) 勉学への影響

勉学への影響	回答数	%
影響ない	166	50%
どちらともいえない	100	30%
やや悪影響	48	15%
悪影響が大きい	16	5%
合計	330	100%

18) 在学期間中に得おくべき特に重要な事項は何だと思えますか。2つ選んでください

語学力	94	一般常識	158	リーダーシップ	24
友人関係	167	社会性	141		

性別・大学生生活全体満足度(人数)

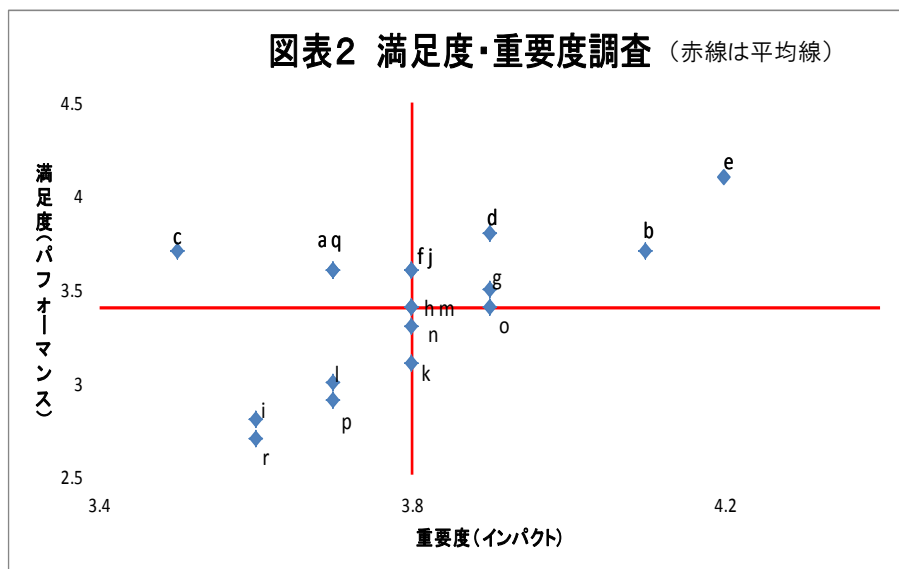
		大学生生活全体満足度			
		合計	高い	中位	低い
性別	合計	342	228	76	38
	男子	199	129	45	25
	女子	143	99	31	13

		大学生生活全体満足度			
		合計	高い	中位	低い
性別	合計	100%	67%	22%	11%
	男子	100%	65%	23%	13%
	女子	100%	69%	22%	9%

満足度・重要度調査

属性	重要度	満足度
a 総合教育科	3.7	3.6
b 外国語科目	4.1	3.7
c 保健体育科	3.5	3.7
d 専門教育科	3.9	3.8
e ゼミナール	4.2	4.1
f 授業内容	3.8	3.6
g 教員の教え	3.9	3.5
h 図書館利用	3.8	3.4
i 学生への連	3.6	2.8
j 少人数授業	3.8	3.6
k 海外留学の	3.8	3.1
l 留学生との	3.7	3
m ネイティブ教	3.8	3.4
n 授業時間割	3.8	3.3
o 成績評価公	3.9	3.4
p 大学の立地	3.7	2.9
q 授業外での	3.7	3.6
r 事務の対応	3.6	2.7
平均	3.8	3.4

図表2 満足度・重要度調査 (赤線は平均線)



<満足度・重要度調査の結果>

学生に重要度と満足度を尋ねた結果を相関関係でまとめました。

第1象限の項目は重要度も高く理想的な教育状況を表しています。第1象限に位置しているのは「ゼミナール」でNo1の地位を占めています。さらに「外国語科目」「専門教育科目」「教員の考え方や対応」などが占めています。

第2象限は重要度は低いが満足度が高い項目で「保健体育科目」と「総合教育科目」がこれに相当します。

第3象限は重要度も満足度も低いものです。これらの問題は満足度が低いいため改善が必要ですが重要度が低いと認識されているため最優先課題とはいえません。第4象限の問題が解決されてから取り組む問題と思われます。これらには「留学生との交流」「大学の立地」「学生への連絡体制」「事務の対応」が含まれます。

第4象限に含まれる「成績評価の公平性」「図書館利用」「ネイティブ教員との交流」「授業時間割」「海外留学の機会」はそれぞれの平均線の上ののっていますが、重要度が高いのに満足度が低く、この領域にある項目は最も改善が急がれる、という結果になりました。

<総括>

本学への進学者は高い進路満足度をもって卒業していく学生が多くいることは誇りとすべきです。特に入学時第1志望で入学した学生は卒業時の大学生生活満足度も高くなっています。また4年間に大いに勉強に励んだ学生は、大学生生活全体満足度が高く進路への満足度も高いものとなっています。部活やサークルへの参加も卒業時の満足や進路について良い影響を与えています。本アンケートからは、アルバイトは進路や満足度に影響を及ぼすものではないが、長時間のアルバイトは学業に大きな負担を強いています。1週間に10時間以内が適切であると思われます。

本学の教員が果たすべき最大の役割である授業そのものについて満足度は高くなっています。本アンケートから読み取れる問題は国際関係学部たる本学の国際性の欠如にあり、国際性豊かなキャンパスづくりが急務の課題といえます。かつてあったネイティブ教員と学生の交流の場の再構築などの検討や、海外留学機会を増やす努力も急務といえるでしょう。

最後に授業サイズや公平性の問題、事務の対応、図書館利用の促進などの課題があります。この調査から授業サイズは30名から60名が理想と考えられていることがわかりました。人間関係が苦手な学生の対応に配慮することが必要です。そのような学生は疎外感を持ち不公平感を増幅させる恐れがあります。事務は学生本位の対応をより一層、心掛けることが必要でしょう。図書館の利用については「自主創造の基礎」などアクティブラーニングの授業で積極的に利用を促し、図書館で勉強する習慣を学生に涵養させるなどの対策が必要といえます。(卒業生予定者アンケート担当:FD委員 寛正治)

4 H27年度前期授業アンケートの集計結果について

表1 国際関係学部授業アンケート科目別結果



表2 短期大学部授業アンケート科目別結果

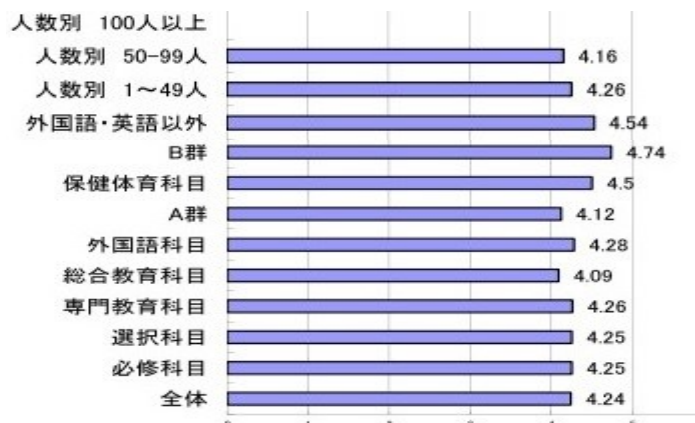
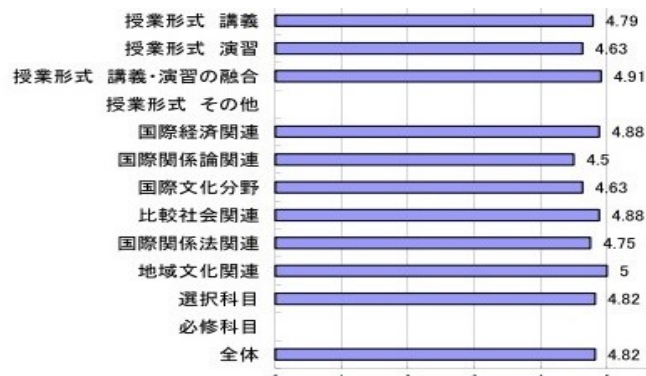


表3 大学院授業アンケート科目別結果



アンケート結果をお届けするのが大変遅くなり、お詫び致します。今後は出来るだけ早くお知らせできるように努めますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成27年度前期の授業アンケートは表1から表3にある通りの結果となりました。各授業担当者が授業評価の詳細を参照し、授業改善に役立てていただければと思います。国際関係学部授業評価アンケートのH27年度前期の全体の平均が4.32でした。経年変化をみると、H23年度の前期が4.17、後期が4.22、H24年度の前期が4.22、後期が4.3、H25年度前期が4.24、後期が4.32、H26年度の前期が4.02、後期が4.05と変化しています。H26年度の平均点が過去の平均点よりやや低い傾向がみられましたが、H27年度前期は通常の水準に戻ったといつて良いでしょう。

短期大学部の平成27年度前期授業アンケートの全体平均は、4.24でした。経年変化をみると、H23年度の前期が4.0、後期が4.16、H24年度の前期が4.14、後期が4.24、H25年度の前期が4.24、後期が4.2、H26年度の前期が3.91、後期が3.97と変化しています。短期大学部においてもH26年度の平均点が過去の平均点よりやや低くなる傾向がみられましたが、H27年度前期は全体平均の水準に戻ったといえます。大学院は受講者数も少なく、授業形式も異なるにもかかわらず、項目が学部生と同じで無理があります。前回アンケート実施時と同じ反省点となりますが、大学院運営委員会での早急の検討が必要だと思われます。

個々の結果を見ると、大人数授業と、専門基礎科目、必修科目などで評価が低い傾向があります。この傾向は変わっていないために、こうした科目への支援と対策が必要です。

また、平成24年度の後期から試験的にアンケート入力Web化に取り組んでいますが、アンケートの回収率の観点から、紙でのアンケート回収も継続することになっております。担当教員は学生が回答しやすい形式を選んでいただき、回収してください。

最後に、今回は、平成27年度に卒業予定者に対するアンケートの実施結果を掲載しました。統計は1つの目安でしかありませんが、FD委員会では今回明らかとなったことを参考にして一層のFD活動に力を入れていきます。教員と職員と学生が一体となって、より豊かな大学教育が実現できればと願っております。(FD委員会)